旭市 防災マップ

Disaster Prevention Map / 防災地図

我が家の防災メモ（災害時の主な連絡先）

■ 最寄りの避難場所

指定避難所		
指定緊急避難場所		
広域避難場所		

■ 家族などの連絡先

名前	会社・学校等	電話番号	名前	会社・学校等	電話番号

旭市地域防災計画（概要版）

この計画は、災害対策基本法第42条および旭市防災会議条例第2条第1号の規定に基づき作成するもので、災害予防、災害応急対策および復旧復興に関し、防災関係機関等が行う事務および業務の大綱を定め、防災対策の推進や防災関係機関と市民が相互に協力して、市域並びに市民の生命、財産を災害から守ることを目的としています。

東日本大震災以降、国の防災基本計画や千葉県の地域防災計画が見直され、当市でも旭市防災会議に諮り適宜見直しを行っています。

次の3つを計画の基本的な考え方に置いて見直しを行いました。

1 地域防災力の向上

災害から生命と暮らしを守るために災害対策を講じていくには、自助・共助・公助の基本原則に基づいて、市民、事業者、市、自治会自主防災組織等の責務と役割を明らかにした上で連携していくことが不可欠である。

特に、自らが考え、行動することの重要性を再認識し、「自らの命は自ら守る」とする自助の取組みを強化した対策とする。

2 要配慮者の視点

高齢者、視覚障害者、乳幼児、外国人等の要配慮者の支援体制を強化するため、地域一体となった対策を充実させる。また、災害予防対策、応急対策、復旧・復興対策の各段階において、要配慮者の視点に立った対策とする。

3 女性の視点

避難所生活における更衣室の設置や女性に必要な物資の配布をはじめ、災害時には様々な場面で女性に配慮した対策を講ずる必要がある。そのため、防災に関する政策決定の場及び現場における女性の参画を拡大し、男女双方の視点に配慮した防災体制の確立を図る。

総則編	計画の基本方針、被害想定及び減災方針などについて
地震・津波編	地震・津波・液状化などの各種災害の予防計画、災害が発生した場合の対応や復旧・復興に必要な措置・計画について
風水害編	風水害における災害予防計画、風水害が発生した場合の対応や復旧・復興に必要な措置・計画について
大規模事故編	大規模火災をはじめ航空機、鉄道、危険物や油流出等各種事故災害に対する予防並びに応急対策計画について
資料編	土砂災害危険箇所、防災行政無線の概要、災害協定、避難場所及び津波避難拠点の一覧などについて

災害への備え

自助・共助・公助の3つの連携の向上が、災害被害を軽減させます。
被災を自分自身の問題としてイメージすることが重要です。

- ■ 自　助……自分の命は自分で守る
- ■ 共　助……自分たちの地域は自分たちで守る
- ■ 公　助……行政や公的機関が取り組むこと

市民のみなさまへ

日頃から、家族そろって災害から身を守る方法を話し合っておきましょう。

非常持ち出し品のチェックと入替え

必要な品がそろっているかチェックし、忘れずに新しいものに取り替える。

災害時の連絡方法や避難場所などの確認

家族と離れ離れになった時の連絡方法や避難場所などを確認する。

避難行動要支援者の把握

避難に支援が必要な人を把握し、支援の体制づくりに協力する。

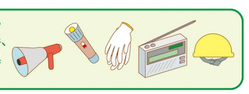
防災訓練に参加しよう!!

災害の規模が大きいほど、消防隊員や警察官等が発災直後に全ての災害現場に駆け付けることが難しい状況になるため、発災時は地域が協力して助け合うことが重要です。そのためには、日ごろから地域の防災訓練に参加しましょう。普段から顔見知りになることがいざという時に助け合う関係に繋がります。

企業のみなさまへ

従業員などを事業所内に一定期間とどめるために必要となる飲料水・食料、物資などの備蓄をお願いします。これらの備蓄を準備しておくことで、自社だけでなく、周囲への支援を行うことも可能になりますので、御協力をお願いします。

飲料水・食料、医薬品、携帯トイレ、防水シート、テント、ラジオ、乾電池、携帯電話の充電器、発電機、ヘルメット、軍手、長靴、自転車、担架、ハンマー・バール・ジャッキなどの工具類、メガホン、トランシーバー、防煙マスク、ライトなど



避難にあたって

避難情報について

避難準備・高齢者等避難開始	住民に対して避難準備を呼び掛けるとともに、高齢者や障がい者などの避難行動要援護者に対して、早めの段階で避難行動を開始することを求めるものです。
避難勧告	災害によって被害が予想される地域の住民に対して、避難を勧められるものです。避難を開始してください。
避難指示（緊急）	住民に対し、避難勧告よりも強く避難を求めるものです。避難勧告よりも急を要する場合や人に被害が出る危険性が非常に高まった場合に発表します。ただちに避難行動を開始してください。

避難の際の注意事項

1. 避難する前にもう一度火元を確認し、ブレーカーを切りましょう。
2. 身分を証明できるものを持参しましょう。
3. 外出中の家族に避難先がわかるように連絡メモを残しましょう。
4. 荷物は欲張らず、最小限のものを持ち出しましょう。
5. ヘルメットや防災ずきんなどで頭を保護しましょう。

6. 車やオートバイでの避難は避け、歩いて避難しましょう。
7. 子ども・お年寄りなどの手を握って避難しましょう。
8. 一人で避難せず、近所の人たちと集団で避難しましょう。
9. 避難する道は、狭い道・塀際、川べりなどは避けましょう。
10. 最寄りの安全な避難場所予定施設に避難しましょう。

非常持ち出し品の準備

準備が出来たらチェックを入れよう!

携帯ラジオ ☐
根拠や確証のないうわさに惑わされずに正しい情報を得るため、小型で軽くFMとAMの両方が聴ける携帯ラジオとその予備電池を忘れずに。

飲料水・食料 ☐
食料は火を通さなくても食べられるものを、水はミネラルウォーターなどを、乳幼児がいる場合は粉ミルクなどを忘れずに。

生活用品 ☐
ライター（マッチ）、缶切り、ティッシュ、ビニール袋、歯ブラシなどを、乳幼児がいる場合は哺乳瓶などを忘れずに。

ライト・ろうそく ☐
停電時や夜間の移動に欠かせないライトと予備の電池を、ろうそくは太くて安定のよいものを忘れずに。

救急薬品・常備薬 ☐
ばんそうこう、ガーゼ、包帯、三角巾、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、風邪薬、鎮痛剤、目薬、ピンセットなどを、持病のある方は常備薬を忘れずに。

衣類 ☐
上着、下着、手袋、靴下、ハンカチ、タオルなどを。乳幼児がいる場合は紙おむつなどを忘れずに。

ヘルメット（防災ずきん） ☐
屋根瓦や看板などの落下物から頭を守るためのヘルメット（防災ずきん）などがあると便利。

現金 ☐
現金は、紙幣と硬貨の両方を持っていると便利。

通帳類・証明類、印鑑 ☐
預金通帳、健康保険証、免許証、住民票の写し、印鑑などがあると便利。

風水害への備え

台風は、毎年日本列島に多数接近、上陸し、度々大きな被害が出ています。台風情報に注意して被害が出ないように備えましょう。

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことです。土砂災害や中小河川の氾濫などによる大きな被害が予想されます。

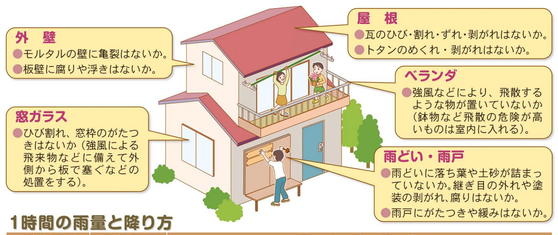
土砂災害は、台風や集中豪雨等を原因として発生する「土石流」、「地すべり」、「がけ崩れ」のことをいいます。

家の中の風水害対策

- 停電に備えてライトや携帯ラジオの準備をしましょう。
- 避難に備えて非常持ち出し品の準備をしましょう。
- 台風などの気象情報を注意深く聴きましょう。
- 断水などの恐れに備えて飲料水を確保しましょう。

- 浸水などの恐れがある所では、家財道具や食料品・衣類・寝具などの生活用品を高い所に移動しましょう。
- 病人や、乳幼児・身体の不自由な方などを安全な場所に避難させましょう。
- むやみに外出するのは避けましょう。

家の外の風水害対策



1時間の雨量と降り方

1時間の雨量	予報用語	雨の降り方
10~20ミリメートル	やや強い雨	ザーザーと降る。この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20~30ミリメートル	強い雨	土砂降りで地面一面に水たまりができる。小規模の崖崩れが始まる。
30~50ミリメートル	激しい雨	バケツを引っ繰り返したように降る。道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。
50~80ミリメートル	非常に激しい雨	滝のように降る。都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。
80ミリメートル以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

情報の収集

災害時の声の伝言板 171 災害用伝言ダイヤル

災害時には電話が混雑し、家族と連絡が取れなくなる方が多くいます。そんなときには「171」をダイヤルし、利用案内に従って伝言の録音・再生を行ってください。利用の開始や録音件数（最大10件）など、利用条件についてはNTTが決定し、テレビ・ラジオなどを通じてお知らせします。

録音方法	171→1→0479→自宅の電話番号	案内放送が流れます。　市外局番が必要です。
再生方法	171→2→0479→自宅の電話番号	案内放送が流れます。　市外局番が必要です。

※災害用伝言ダイヤルは、一般電話のほかに公衆電話、携帯電話及びスマートフォンからも利用できます。

災害用伝言板への安否情報登録及び確認方法

登録方法

①Menu画面に表示される「災害用伝言板」を選択 → ②「登録」を選択 → ③「無事です」等の状態の選択と100字以内のコメントを入力 → ④「登録」を押して完了

確認方法

①Menu画面に表示される「災害用伝言板」を選択 → ②「確認」を選択 → ③安否を確認したい人の携帯電話番号を入力 → ④「検索」を押して伝言を確認

NTTdocomo	au（KDDI）	SoftBank
http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi	http://dengon.ezweb.ne.jp/	http://dengon.softbank.ne.jp/

スマートフォンやパソコンなどからも伝言が確認（災害時のみ）できます。　※詳しくは、各携帯電話会社にお問合せください。

市からの情報提供

「防災あさひ」情報メール配信サービス

旭市から気象警報等の災害緊急情報を携帯メールに配信するサービスです。
登録していただいた皆様に、役立つ情報を無料で配信いたします。

登録方法

asahi-sr@e-bousai.jp に空メールを送ると完了です（携帯電話専用）。
※ドメイン指定受信、受信許可などの設定をされている場合は、「e-bousai.jp」のドメインからのメールを受信できるように設定しておいてください。

旭市ホームページ

火災や災害の発生情報や、防災行政無線情報などについて記載しています。

http://www.city.asahi.lg.jp/sp/em/index.html

総合メニュー　火災発生情報　災害発生情報　防災行政無線

旭市防災マップ スマホ用アプリケーション

「旭市防災マップ」のスマートフォン（多機能携帯電話）向けアプリケーションです。Android 端末向けアプリケーションは「Google Play」、iPhone 端末向けアプリケーションは「App Store」から無償でダウンロードできます。

編集・発行：旭市総務課地域安全班　TEL 0479-62-5311

平成30年3月作成

旭市イメージアップキャラクター「あさピー」

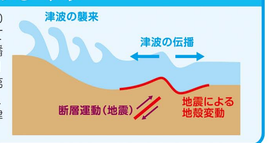
津波浸水予測図

この地図は、千葉県が気象庁の津波警報レベルにあわせて作成した津波浸水予測図のうち、「大津波警報10m・防潮施設なし（水門開放）」の場合に予想される、旭市内の津波浸水範囲とその程度を表示しています。

地震の規模によっては、想定範囲を超えて津波が押し寄せることも考えられます。

津波発生のしくみ

海底下で大きな地震が発生し、断層運動により海底が隆起もしくは沈降した場合、それに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。「津波は引き潮から始まる」ということを聞きますが、必ずしもそうではなく第1波から大きな波が押し寄せてくることがあれば、後続の第2波、第3波の方が大きいこともあり、津波は何度も押し寄せてきます。



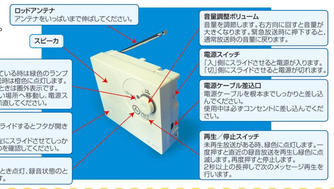
防災行政無線（戸別受信機）について

市では、防災情報が聞ける家庭用「戸別受信機」を無料でお貸ししています。

防災行政無線は、地震や火災など災害時の情報をいち早く伝えます。また、市からの「お知らせ」など生活に密着した情報も放送します。

戸別受信機を設置されていないご家庭は、総務課地域安全班または各支所住民室へお申し込みください。

- 原則として、各家庭1台です。
- 市外へ転出するときなどは、返却してください。
- 電池は、年1回交換してください。



よくある質問

Q 乾電池を交換したのに、「乾電池を交換してください。」とメッセージが流れる。
A 電源スイッチを一度切って入れ直してください。また、電池は1種類2本で使用してください。

Q 最近、放送が聞こえなくなった、もしくは雑音が入るようになった。
A アンテナを最大に伸ばし、設置場所を変更して再度電源を入れ直して確認してください。それでも聞こえない場合はお問合せください。

津波への備え

津波からの身の守り方

津波で命を落とさないために、「一人ひとりが迅速かつ主体的に、出来る限り海岸から離れ、より高い場所を目指して避難する」ことを心がけましょう。

●揺れが小さくても油断しない
感じた揺れ（震度）と地震の規模（マグニチュード）は別です。小さな揺れでも大きな津波になることもあるので、決して油断してはいけません。

●海岸近くで地震を感じたらすぐに避難
強い揺れ（震度4程度以上）や、長い時間の揺れを感じたら、すぐに海岸から離れ、急いで高台などの安全な場所へ避難すること。

●河川や水路に近づかない
津波は河川や水路を遡上しますので、近づいてはいけません。

●津波は繰り返し襲ってきます
第1波よりも第2波、第3波の方が高くなることがあります。荷物を取りに戻ったり、様子を見るために海岸へ近寄ってはいけません。

津波警報・注意報について

警報・注意報の分類	発表する値（発表基準）	定性的表現※	想定される被害	とるべき行動
大津波警報	10m超	巨大	巨大な津波が襲い、壊滅的な被害が生じる。木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。	一人ひとりが迅速かつ主体的に出来るかぎり海岸から離れ、より高い場所を目指して避難する。 津波は繰り返し襲ってくるため、津波警報が解除されるまで避難を継続する。
	10m		巨大な津波が襲い、甚大な被害が生じる。木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。	
	5m		津波が襲い、甚大な被害が生じる。木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。	
津波警報	3m	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。	
津波注意報	1m	なし	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れる。津波注意報が解除されるまで、海に入ったり海岸に近づいたりしない。

※マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定する。このとき、予想される津波の高さを定性的な表現（巨大・高い）で発表し、非常事態であることを伝える。
・地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害のお心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報（若干の海面変動）」を発表する。

東日本大震災からの教訓

「後世に残したい言葉や教訓は？」の問いに、被災した住民が出した主な意見

- 大きな揺れを感じたら、すぐに避難する。ここなら津波は来ないだろうと思い込むのは危険である。
- 過去の津波経験がマイナスに働くことがあり、経験にとらわれないことも重要。
- 津波警報が発表されたら、すぐに避難する。
- 停電になっても使用できるラジオや携帯電話などの連絡手段を確保しておく。
- 被害に遭わないようにするためには、避難時にも地震や津波の状況を知ることが重要である。
- 緊急時に持っていく物を事前に準備しておく。
- 高いところへ逃げる。忘れ物をしても絶対に取りに帰らない。
- 車で避難した時、洪水や周りの状況が把握しにくい時には、車から降りて逃げる。
- 安全な場所を自分で判断できるようにしておく。

中央防災会議：東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会

地震への備え

地震からの身の守り方

まずは身の安全
家具などが倒れたり、落下物などによる危険があるので、机の下などに潜り込んで身の安全を確保する。
手近な座布団等で頭を保護する。

出火防止
すぐに火が消せる場合は、まず火の始末をする。余裕がないときは、身の安全を確保し、揺れの合間をみて火の始末をする。

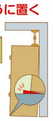
逃げ口の確保
地震の揺れにより建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがあるので、ドアなどを開けて逃げ口を確保しておく。特に中高層住宅では注意する。

初期消火
火事が発生したら、「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め、初期消火に努める。
初期消火は天井に燃え移る前までを目安とする。

落ち着いて行動
瓦や窓ガラスが落下するのでむやみに外に飛び出さない。
家屋の倒壊や火災の危険がある場合で、屋外に避難するときは、落下物に注意して避難する。

家の中の地震対策

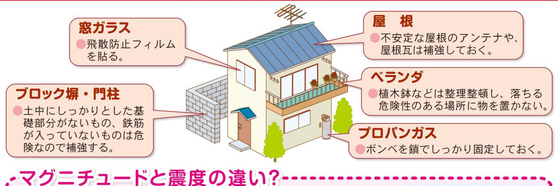
家具は倒れにくいように置く
家具と壁の間に隙間などの遊びがあると倒れやすくなるので、家具の下に小さな板などを差し込んで、家具が壁に寄り掛かるよう固定する。



寝室などには家具を置かない
寝ているときや、子ども・お年寄り・病人などは家具の下敷きになり、逃げ遅れる可能性があるため、寝室などには家具などの倒れやすい物を置かない。

出入口や通路に物を置かない
いざというときに、出入口を塞いでしまうことがないように、玄関などの出入口や、玄関などの出入口までの通路には家具などの倒れやすい物を置かない。

家の外の地震対策



マグニチュードと震度の違い?

地震の起こった場所（震源）から出るエネルギーの大きさを**マグニチュード**といい、ある場所で感じる地震の強さを**震度**といいます。

一般的に、マグニチュードが大きくても、震源が遠い場合や深い場合は震度が小さくなります。また逆に、マグニチュードが小さくても、震源が近い場合や浅い場合には震度が大きくなります。